

読書の秋

「一冊の本との出会いが人生を変えた。」こんな一文を目にしたことはありませんか？本の持つ力を見事に表したフレーズです。

自分に合った素晴らしい本とは、どのような本なのでしょう。それはもしかすると、その時の自分の気持ちや取り巻く環境によって変わるものかもしれません。他人にいくら「おもしろいよ、タメになるよ」と勧められても自分がそう感じるかどうかは読んでみないとわかりません。もちろん、本の売れ筋ランキングや周りの意見を参考にすることも良いでしょう。しかし最も大切なのは自分の感じ方です。

ではどうすればいい本に出会えるのでしょうか。とにかく本を開いてみましょう。あなたにとって、人生を変えるほどの本に出会うのは今日かもしれません。



昔読んだ小説を読み返すことで新たな感動を味わえたり、これまでの人生の経験によっては、若い時とは違うとらえ方ができたりと、何度読んでも別のたのしみ方ができるのが、本の良いところではないでしょうか。

●小説もいろいろありますが、その作家のエッセイなどはいかがですか。その作家のひととなりを知ることができ、新たな発見ができたります。

●また、旅に出る前にその土地出身の作家の本を読んだり、小説の舞台となった土地を訪れたら、旅と本は友だちです。

●とはいえ、小説を読む習慣のない人や、普段から本を読む習慣のない人にとっては、読書はつらいもの、面倒なもの。・・・と考えがちです。でも、雑誌などをペラペラというのでは誰でもしておられるのではないのでしょうか。その雑誌で紹介されているブックレビューなどの特集からちょっと読んでみたい本を探すと、読むのはいかに分るのか。小説に限らずあらゆる分野の本が紹介されていることが多いので、新しい発見があるかもしれません。



本を読むとどうなるの？

○物事をいろんな角度から見る
○知識が増え、教養が高まる
○想像力が鍛えられる
などと言われています。つまり生きていくうえで大切なものを得ることができるといえるのです。

本を読み、自分とは違った考え方や生き方を知ると、心に刺激が与えられます。世の中には、いろいろな考え方やものの見方があるということを知れば、単なるひとつの出来事が、まるでトリックアートのようになり、様々に形を変えて見えてくるはず。ガラクタクがお宝になったり、困難な課題が大した問題でなくなったりするかも知れません。

たくさんの本を読んだ、いろいろな人の「人生経験」や「考え方の道筋」を頭の中に入れることは、目に見えない自分の財産。知識になりま。生きていくうえで、決断をしなければならぬとき、いろいろな人の意見をもとに自分で決めたほうが、よりよい判断がくだせるかもしれない。本は、いろいろな人

絵本の力 絵本は子どもだけのもの・・・？

今、絵本が見直されています。

読書は、心の栄養となり、豊かな人間形成に役立つことは先ほど述べました。それはなにも難しい書物に限った話ではありません。絵と文で織りなす絵本。質の高いものは心を潤す魔法の力があるといわれています。子どもの読み物という殻を破り、大人も読みたいそんな絵本が増えていきます。

これら絵本は全国から東日本大震災の被災地に届けられ、多くの人に笑顔を贈りました。本市にあるウッディバル余呉からも3万2千冊が届けられています。子どもだけでなく、大人も含めて、心の復興に一役買っているのが絵本なのです。

の意見なのです。また、読書によりいろいろな知識が増えていくと感性が豊かになります。考えもしなかったことを思いつくのは、想像力がアップした証拠ではないでしょうか。

こんな読み方どうですか？ 図書館よりおすすめ読書 方をいくつか紹介します

●まず、どんなジャンルの本を読みたいか。・・・。文学の分野



でいえば、小説・SF・ミステリー・時代小説・警察小説など、最近では多岐にわたった分野の小説が読まれているように思います。特に、時代小説は読む人の幅もひろく、若い女性もシリズを好んで読んでおられます。●とはいっても、どんな本が自分にぴったりで、続きが気になる！引き込まれる！といった小説ならではのたのしみ方ができるのか、わかりませよ。そんなときは、アンソロジーをお勧めします。アンソロジーとはいろいろな作家が一つのテーマにそって書かれた短編を集めたものです。いくつか読んでお気に入りの作家の小説にたどり着く。・・・。というのはいかがでしょうか。

●時間にゆとりができた人は、

自分の読み方にあたりリストを作ることで、後で自分がその時に興味があり、何に悩んでいたのかを知ることにもなると、ちよつとした財産になります。

●同じ本を読んだ感想を語り合う、読書会も最近見直されています。読書会も最近見直されています。読書会も最近見直されています。

●読書の時間を確保できない、家にいると用事をしてしまつて読みたくても読めない、という人はおられませんか？そんな時は、電車に乗るのはどうでしょうか。どこかに出かけるためではなく、読書のために電車に乗る、という人に出会ったことがありますよ。

心をこめて たんたん

市内では、子どもたちに本の面白さを届けようとボランティアで読み聞かせを行っていただける団体がたくさんあります。ここでは、そんな団体のひとつ、「長浜小学校図書ボランティアおひさま」で活躍中の川瀬さんに読み聞かせの魅力などについてお話を伺いました。



予想もしない反応が、 うれしく 何よりのお返しです

川瀬 美子さん

「まさに予想もしない反応で、本を楽しんでもらえたことが伝わってすこうれしかったです。」

心に残る出来事を優しい目で語ってくれる川瀬さん。子ども達との交流で自身も楽しくなり、また、元気になることがこのボランティアの魅力のようだ。

では、子どもたちが夢中になる読書の良いところはどんな点なのだろうか？

「ほんの一瞬でも違う世界に行けてしまうこと。自分が誰にでもなってしまうし、何にでもなれてしまうことではないでしょうか。小さな子の物語であれば、幼い頃の自分に戻れたり、動物の話であれば、動物になったり。お話を聴いている10分、15分の間は別の世界を楽しめることが読書の良い点だと思います。想像力がつきましますね。『相手の立場になつてものを考えなさい』と言われますが、どの人にもなれる、何にでもなれるということは、相手の立場になれるということ。想像力がつくというのは、そういった力がつくことでもあると思います。」と教えてくれる川瀬さん。

最後に、これからの活動について尋ねてみた。

「無理せず長く続けていきたいですね。ボランティアといえども自己満足で終わらず、技術を向上し、より子どもたちに楽しんでもらえるよう頑張りたいです。もちろん自分も楽しみながら。技術的にいえば『心をこめてたんたん』が目標です。その結果、読んであげた物語が何か一つでも子どもたちの心に残ればいいですね。」

「近所で図書ボランティアをされている人がおられて、『難しく考えないで、気楽に考えていいから一緒にやらない？』と誘われたのが始まりです。」と読み聞かせボランティアに入られたきっかけを話してくれる川瀬さん。

家事や仕事をしながら、それでも読み聞かせボランティアを行っている理由。読み聞かせの魅力とは、何なのだろうか？

「こちらが思ってもいないところで、声を出してくれたり、予測のつかない反応してくれる子どもたちとのふれあいが一番の魅力です。例えば、物語上、誰かがいじわるするような場面では『それはどうかと思う』と発したり、はたまた、おもしろい展開になると大きな声で笑ったり、純粋な気持ちで物語を楽しんでいる。その素直な反応がすこうれしいですね。ある時、リンゴやバナナなど食べ物の本を読んであげた時でした。大抵の場合、本を読み終えるとみんなからありがとうと言われます。でもその時は、『ごちそうさまでした』と言ってくれ